

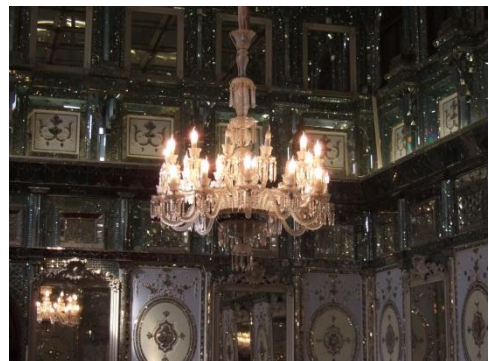
イラン初渡航を終えて

こんにちは。ペルシア語専攻 2 年の藤巻憲です。今年の夏私は初めてイランに渡航しました。イランと言えば核兵器開発疑惑や緑の運動弾圧に象徴される政治的自由の少なさなど負の側面ばかりが強調されがちです。また、かつてのイラン革命やアメリカ大使館占拠事件などを想起される方も多いかと思います。さらに最近ではイラン国内で原発が稼働したことやイランによるアメリカ合衆国内でのサウジアラビア大使暗殺計画疑惑などでイランにまつわるイメージはますます悪化していることかと思えます。そのような国に一体なぜ赴いたのだろうかと思われる方もいらっしゃるかもしれません。私自身がイランに行った理由は自らの専攻語であるペルシア語が話されている地域に行きその土地の人々・文化などに触れることによって新たな刺激を受けるため、そして協定校であるイスラーム自由大学シーラーズ校で行われた語学研修に参加するためでした。九月中旬から約半月テヘラン・エスファハーン・シーラーズ・ヤズド・カーシャーンという五つの都市を回り、貴重な経験をしました。これから私が見たイランについて少し紹介をしたいと思います。

テヘラン

まず初めに訪れたのはイランの首都であるテヘランです。そこは常に道路が車や人で混み合う活気のある都市でした。大通り沿いには **Panasonic, Sony, Samsung, LG** などの看板が立ち並び、様々な店がありました。テヘランには色々な物が揃っていたのですが、車が多いせいか排気ガスの量も多く、ここで暮らすのは大変そうだと感じました。ただそれはテヘラン南部の話で、北部は空気がきれいでした。

観光地で印象に残った場所はゴレスターン宮殿です。ここは内装がとてもきらびやかで見えるものを圧倒します。古美術品や絵画なども展示されており、イラン芸術の美しさ、歴史の古さを感じることができました。ゴレスターン宮殿はガージャール朝(世界史ではカージャールと習うかもしれませんが、こちらの表記の方が原文により忠実です)で王宮として使われていました。ガージャール朝はロシア帝国との戦争の末トルコマンチャーイ条約と呼ばれる不平等



条約を結んだり、アフガーニーによるタバコ・ボイコット運動が起こったりするなど世界史的にもよく注目される王朝ということは有名です。

エスファハーン

次に訪れた場所は、サファヴィー朝期に「世界の半分」とまで称揚されたエスファハーン（これも世界史ではイスファハーンと表記されます）です。エスファハーンに



あるイマーム広場とそこにあるシャーモスクは世界遺産に登録されている

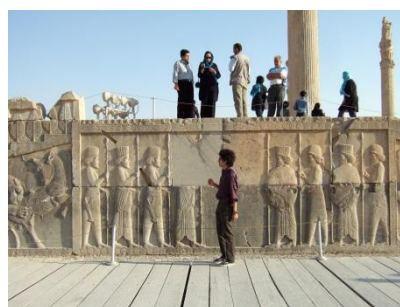


だけあってとても美しい場所でした。エスファハーンは当時の君主であるアッバース一世によってサファヴィー朝の首都になったことでも有名です。またサッカーが好きな人には分かるかもしれませんが、度々アジアチャンピオンズリーグに出てくるセパハンエスファハーンを本拠地としています。

シーラーズ

シーラーズでは最初に述べたとおりイスラーム自由大学シーラーズ校で研修を受けました。研修期間中はイランの歴史や詩についての講義を受けたりシーラーズ出身の有名な詩人であるハーフェズとサアディーの廟やペルセポリス

(写真)に行ったり研修に参加していた他大学のペルシア語履修者との交流を深めたりと、充実した日々を送りました。シーラーズの人々はイランの中でも特に詩に親しんでいる人が多く、だれの詩が一番好きかと現地人に聞かれたこともありました。イランでは昔から詩がとても重要視されており、ネイティブの先生のペルシア語会話の授業でも毎回詩の暗唱（といってもほんの少しですが）から始まります。



イランの食事

イランの朝はナンと紅茶（チャーイ）から始まります。ナンはインドカレー屋で出てくるようなふっくらしたようなものではなく、平べったく、それにバターやジャムなどを塗って食べます。それ以降の食事はキャバブ（いわゆるケバブ、



羊肉か鶏肉)・イラン米・ホレシュトというイラン風シチュー・サラダがよく出されました。基本的に食事は脂っこかったので慣れるには時間がかかりました。飲み物はコカコーラ・ファンタに加えドゥーグというヨーグルトに塩を入れた飲み物やノンアルコールビール(宗教上飲酒をしてはいけないため・写真)も人気です。

イランの気候

国の大部分は砂漠地帯または半砂漠地帯に分類され、私が行った場所はどこも湿度が10%でした。常に晴れており、雲を見た事もありませんでした。私の滞在期間中に雨は一度として降りませんでした。そのため砂埃は日本に比べ目立ちます。これは中東に対して多くの人を抱くイメージ通りです。

ヘジャーブ

イランと言えばイスラームのことを思い浮かべる人も多いのではないのでしょうか。イランでイスラームというと女性が肌や髪の毛をヘジャーブで隠さなくてはならないということが有名です。これこそが女性差別の典型であるとメディアの報道で聞いたことのある人もいるかと思います。そういった面は否定できませんし、旅先で会ったイラン人にスカーフなんて大嫌いだと思われたこともありました。散々批判されているヘジャーブにも実は合理的な面もあるのではないかという印象を受けました。例えば、ヘジャーブによって髪の毛や肌を守るのは利点だと思いますし、そのほかにもヘジャーブをポジティブに捉えることもできるのではないのでしょうか。

最後に

この旅で驚かされたことはイラン人がたいへん好奇心旺盛で全く人見知りをしないことです。まずは「どこから来たの?」で始まり、「なんでペルシア語できるの?」「どのくらいイランにいるの?」などと質問攻めにありました。そしてそんなイラン人の中には私の代わりにホテルの予約をしてくれたり、「今日暇だから～」と言って観光地を案内してくれた人など、とても親切にしてくれる人が数多くいました。そんな温かい人たちとたくさん出会えたことで、イランに対するイメージはかなりポジティブなものになりました。そんなイランについてこれからも一層積極的に学んでいこうと思います。

(2年 藤巻憲)